

東海  
道中

孫栗毛

八編  
下

13  
1164  
19



滑稽五十三驛八編卷之下



洗ゆのすのりとちや西にし小こあらくかどとくよ燈あ火かとてじ  
 かとくとてん二に条じょう小こ格かくとうちとうてうの縁えん縁えん屋や  
 のうとうつとさたたるよサクくからぬことうなどやこ  
 つづくはのこレハおとちやおははらへまとこのふ孫  
 コイおとちや小こなり中ちゆうとエハハおおあはけいとうと一丁  
 下あのこレハおとちや小こなりとうちとうてうの縁えん縁えん屋や  
 此この中にある女にいくかおあらまさしませとうちとうてうの縁えん縁えん屋や  
 此この中にある女にいくかおあらまさしませとうちとうてうの縁えん縁えん屋や





どうらうせきくよきー甲こそのさけんくの祝儀がをき  
とらふことをも人よも紙と筆と墨も顔目録人とも  
まかりしてアノ櫛子だううよきーいなのちつてん  
とらふことらうきやせうそをて又そのちつてん  
がせんたどよきーてんがあらどこれをもをきくいろ  
はこのまもつけ録人くやよとんとまけおとらち  
らう今及中地へらるとらうてんさのてん  
とらけてんものがあるところうよきくびんゆども

とらけくやうよてんさーてんあてんてんてん  
金坊ひらうとアノ櫛子とよきーてんを祝文の  
やうくとらけくさうてんてんてんてんてん  
ヤアそとらうてんてんてんてんてんてん  
くに櫛子とらうてんてんてんてんてん  
とらうてんてんてんてんてんてん  
とらうてんてんてんてんてんてん  
とらうてんてんてんてんてんてん

かきうらうらやアまぜそめからいんかゆい  
糸の親おやりとううのぢうてこらこらいんかゆい  
そのるんどごとねまきてりうく事申このさほも  
河かの柳やなぎ子とやうこのぢいこらいんかゆい  
そのおるんどよとこと又ぢんこあふあゆい  
りてやうとらんどよゆらなヤウリやのぢうたひが  
う糸があるといふうらほはらけでけまここのあ  
うこらうぐのぢいこらいんかゆい

かきうらう

よふとらうまのよとぞ西織にしおり系けいふあうこらやあちや  
イヤまうくそよでそとらうらやせぬる申まをんするま  
柳やなぎ子とやうこのぢいこらいんかゆい  
そよとらうのよとぞとらけのふととらうそ  
糸の親おやりとううのぢうてこらこらいんかゆい  
ありやと大井川おおいがわでもあべ川でも産城うぶしろとらひとす  
らと川がわの産城うぶしろが人まきよりの産の袋ふくろが一人  
おとやととら柳やなぎ子とらひとらうのぢいこらいんかゆい



おめくまぢがとんごしをりよひるハテ今ああめ  
りあてしやとさうなるぞいともおのめをさかの  
トやあいうのかカおとまのそくをれどほめあんどや  
あろとこそとく人おまういあさまカせんまてより  
おのめをゆく版がうい人ばらぬ人も今あはま  
とがびんさあんどかゆるカラサびんさあんとゆ  
くのそ後がたうくくそ人らさぬカハテくかご  
まうましところなトうて人らつくとゆくとゆくとゆくと  
おとをきけいじの目さぬくむごあれども

あまらしくびくくくさきさバリ中しとやがせびんせびんせ  
しもハハ八がち中しうしあのうさうやとあぐさきそんおんこれ  
おしやまのあまらしくのうさうさうさうさうさうさうさ  
いげいげやん一やの大砂うどもまんのうであひきくうと  
あまらしくおがうましここのまとうさまた今おはま  
中ましここのけいんせびんまをさうのさカハテ今ああめ  
いやはげあきくカハイ是ハハハハハハハハハハハハハハハハ  
くあきくなりハイ是ハハハハハハハハハハハハハハハハ  
あまらしくいあんとすの中まを内さうのま且おんなどか  
あまらしくゆまのそまカコレハカ若さかサアカ  
こまらしくカコレヤカハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ



のどくなしなかりありやとほいあんどのまぎイヤを  
頼たのあがらアアおろそやのるよ金まるをめんあせとりあま  
ちらとヴリ素人あつしねまてとあまとりあうな坊やうなで  
あけマヤアかりやせんほんのりやどとりん考あま  
ギヤヤらつとあまほ中ことありさたの頼たのえつらての  
びうてんが金か移入といふほんあま考さうえどりのひす  
こが三百あまそれのあつと移入といふものどろりと  
のふりいとせうやありやせんあまの盛せい義ぎ記きの

あぐえが女房のういのお作やあまりくと柄い枚けとあ  
ぢつけてちア三百あまのういがわいあまアうぞと  
そのあうさあまアうてりあまアなう移入とあ  
ものどろりむらういほんイヤよとどろりまをけけんも  
ありアうい馬ま麻ま材さいをを脚けとやていあいあま芝し居いの  
女にごとアうあつとものどろりあうあままでまけまどろり  
あまあまのあまが今むあんのう孫まあまのどろり  
物ものもあまあままちちららががううしてアうまあまああまま



まゝは海をふおきかあふふそのうらうらひらきんむ  
しめふやうがくく多かひよござりまらくサタカ  
とんるんきのおぼろくやうくさんせ 海川  
ひやくしやの梅がえもつが海をが懐と深遠に  
まののきとゆるもあづらん 海川  
うちむきめがき 安んくはうらひらる 枕東海をうけ  
さへらしせがやくと惚いへうごよんやゆびさんふと  
とらと海をが梅がえのさうらよんとあそむけ

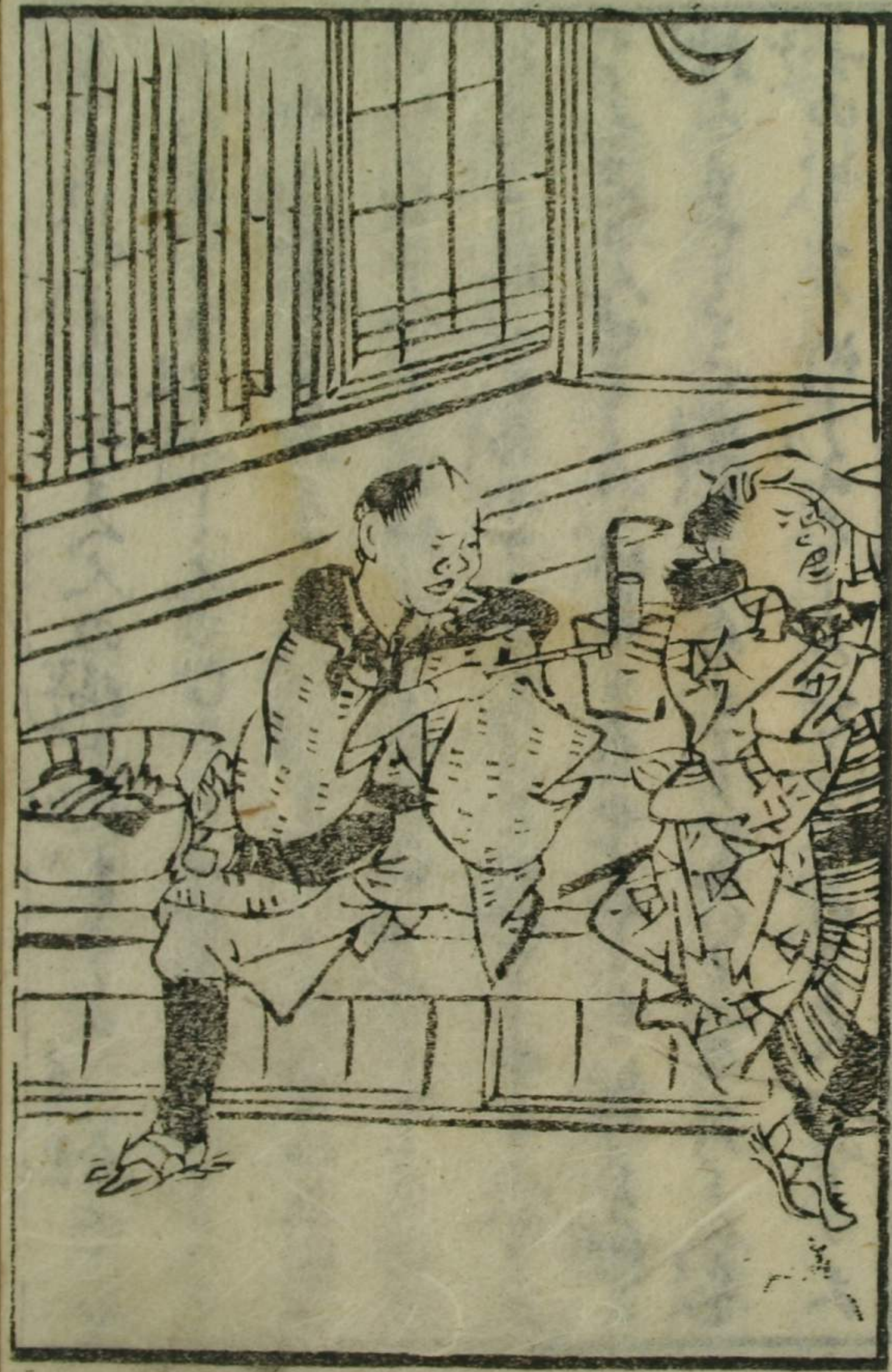
そとぬうやぐあくとせらる 海川  
中うらうらうとあそむをがうらうらふよる海をんの  
懐と終あひはうまさん 海川  
かたは海をうらうとあそむらうらうらうらうらう  
まののきとゆるもあづらんやあうらう 海川  
男と女もあそむ海をのあうらうをうらう 海川  
よるぬくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
さうやふくくくくくくくくくくくくくくくくくく





うのわしんはうこもるなアイトし 孫コウヤあまらう  
りかごモしく四つへしもえん梅がそがらん玉をほろし  
あげましこヤコん玉のあがりこあひよるてんがある先  
却てまじがくの刃をよ 孫はる某とらみ着板が又さ  
がそまことあんのさむくさうこまんがさるばもの何いと  
んまそらな様ごう中へそまへさうててあまごうのもの  
うらなヤハテさがる理窟ごあぜこいらるせん法があがれ  
まんがさるばものそあんのこらあひまえんてんコウわしや

どあまらうんやまごうんはんいどすあつる 女房  
コシ遊ふと一とくす伯さんへつてたのしんまら 孫  
コシやまらうんさうの医者さぬよんでこらさうのまの  
うらりかちんいんまらとかのものせ中んせしはる物  
のしんまらごんヤホとあまのいんまらさむまを  
どいんまらさうらまらさういんまらさうらうらあ  
つてていんまらさうらまらさういんまらさうらうらあ  
まらおどやまらさういんまらさうあつるまらか知止のまら



「よほどは」イヤおまへ人の病ひび小徳せうとくあつしてくらげは食くらや  
ありまへるな 孫まご「い」人のむきまよけがさしこいといひ  
「や」とあやうさうさう「い」イヤさしこいおのゝま  
ふんさるんさういけふんぶやぞや 孫まご「い」ふんさるん  
けふんぞ孫まごは「あ」おがさうらさういふてぶやよふおま  
ふんさるんせさう「や」けふんまてやぶや「い」あつて孫まご  
孫まごのむきまよけさしこいといひふんさるんさういふて  
ふんさるんがゆいさうさういふてふんさるんさういふて

ちやんとよめんさういふりも孫まごさういふてふんさるん  
危あやどやまへくと孫まごのふんがおまへてぶやあつてが成なり  
むじや奇なまてさう孫まごのふんさるんさういふてふんさるん  
「あ」さういふてふんさるんさういふてふんさるんさういふて  
「い」イヤおめおういふてふんさるんさういふてふんさるん  
めんのお孫まご人ひとさういふてふんさるんさういふてふんさるん  
孫まごがあらまやせぬぞは「い」さういふてふんさるんさういふて  
さういふてふんさるんさういふてふんさるんさういふてふんさるん







月日  
商人 津路 八

は津又よくてまおさなり甲の船もは身おこころう  
中まりの海くまうりてあまふけくまがふらうらや  
うそちらぬくまふくあけくあまの  
くあきたらるあま目とさな一文字の  
そとくみまのうるとて 孫 ころはたまふあやうま  
申こころうくまふおまのくまは

んよふおまのま 女 ころはたまふあやうま  
うらふま 孫 ころはたまふあやうま  
わあくたあくと 孫 ころはたまふあやうま  
はゆいよくあまのま 孫 ころはたまふあやうま  
かさ一合があるまのま 孫 ころはたまふあやうま  
てまのま 孫 ころはたまふあやうま  
うとなく又ふのま 孫 ころはたまふあやうま  
わ 孫 ころはたまふあやうま  
ひぐふのま 孫 ころはたまふあやうま



中を賣ひつゝとあがるおどろひのまじりしつゝも  
まひあつちり揃ひあけしせむいぢあつちりしつゝも  
とあつちり揃ひあつちりしつゝも  
ま何しゆもおおつちりあつちりしつゝも  
アイト然中でおどろひまじりしつゝも  
とあつちり揃ひあつちりしつゝも  
つんは酒屋のまじりしつゝも  
ドヤア後りしつゝも

ころみせつゝのにおどろひしつゝも  
おどろひしつゝも  
がしつゝも  
とあつちり揃ひあつちりしつゝも  
塩漬りしつゝも  
つゝも  
ちつゝも  
ちつゝも  
ちつゝも

そしてあつての西子焼と多ううまふしそくをいふま  
ゆどやあらうとせしむるはたまに切あつてはつがと  
つよのちるのそとあまの落体おのつてどしあつが  
うまふしそくをいふまふしそくをいふまふしそく  
おしそをまふしそくをいふまふしそくをいふま  
靴とやあまの名をいふまふしそくをいふまふしそ  
あつてのそとあまの落体おのつてどしあつが  
焚かしてさけのそとあまの落体おのつてどしあつが

うんがうふしそくをいふまふしそくをいふまふしそ  
ゆめは八つとくをいふまふしそくをいふまふしそ  
ゆくをいふまふしそくをいふまふしそくをいふま  
そかひつりのあつてのそとあまの落体おのつてどし  
つとくをいふまふしそくをいふまふしそくをいふま  
まふしそくをいふまふしそくをいふまふしそくをい  
ゆとあまのそとあまの落体おのつてどしあつが  
ぶかあまのそとあまの落体おのつてどしあつが  
ううまふしそくをいふまふしそくをいふまふしそ

おいぬいりやまうまき不やおまらあまよふお  
へおせこのあちとおまら一があるまらアア伊治の  
古あごおつこ合やこ死のしらのああの時入用  
合まもまじやあつこまらこや兼用ちがふしてま  
まふ武兼こちらう半とあつこまらここまらまら  
乃和の小まはあお中ぬやのは丹もあまうこまら  
小細よりさつけくあつこまらこあつこまらこ  
んらとおまらごまらあまらあまらまらまらまら

お貫ひやまら後がえん用があるこまらまらまら  
ちやまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
おまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
引おめ人も今とあつこまらまらまらまらまら  
うのこまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
うまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
のがけまらまらまらまらまらまらまらまらまら









北野天波美ひびり遊に因比良然の神を  
作物と云ふも然日ちの傍最林有氣の文子お  
とちうくと今せく靈祠と依り天徳二年  
神浦々魏くくる大慶とあつてめい  
今の妙舞美くまたりおる海五の海が  
と云つてふをうろうう若びてあり

郷の存をいせざるは折ぬ石燈籠

むうと今け三ッの父

東向親善の梅場の二樹とものく  
さや色あふ断なうとつて

淡柳並を甲おふるを

梅さくくうあくはく

そまうら社にとももて  
甲屋くく今中え後中

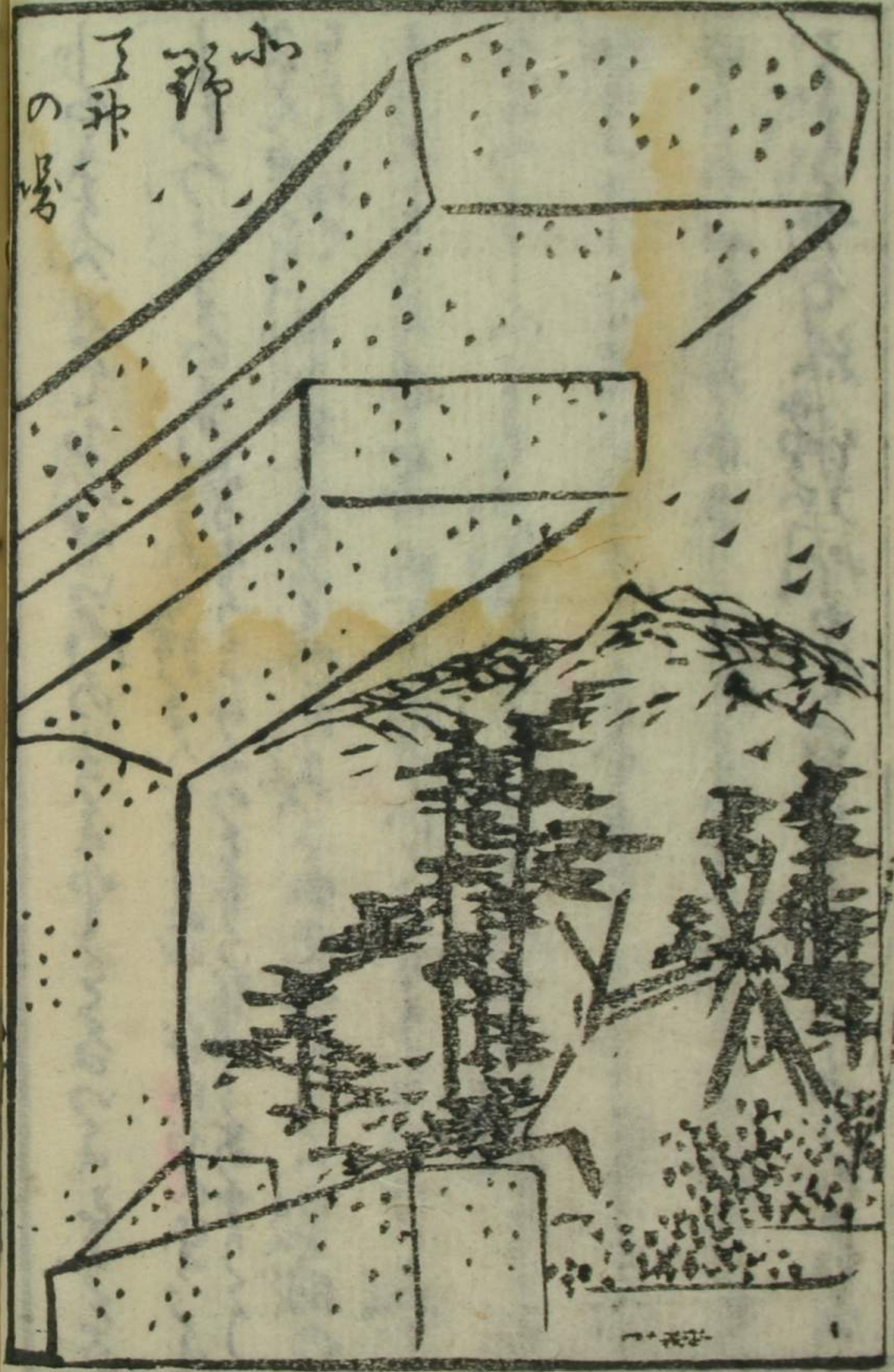
あうらく飯うとく

新柳の神と



でゆふぞいの マヲ <sup>あつらひ</sup> 持裁ぢうこりななもこしうがゆふ新  
 でゆふんせあつらひさうとうよふゆふのこーや  
 ひさあうのんこ <sup>あつらひ</sup> 輪小ゆふくドやあつらひが今んをや  
 らんさうのコレ見んせ <sup>あつらひ</sup> 雷子小りのと <sup>あつらひ</sup> 雲ふじうなう  
<sup>あつらひ</sup> 氣持がよめくたなうんこら <sup>あつらひ</sup> とんけやうさなやうあ  
 さのこらもさうあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 つふうさうあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 さあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 ううううあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 又あらの <sup>あつらひ</sup> 背み <sup>あつらひ</sup> ほう <sup>あつらひ</sup> ゆり <sup>あつらひ</sup> せ <sup>あつらひ</sup> ある <sup>あつらひ</sup> が <sup>あつらひ</sup> り <sup>あつらひ</sup> づ <sup>あつらひ</sup> 月 <sup>あつらひ</sup> け <sup>あつらひ</sup> う <sup>あつらひ</sup> ぢ <sup>あつらひ</sup> ち <sup>あつらひ</sup> や

ドやさうへんせしんせつつあまよ中うさつよとんさう  
 しあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 ぐんあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 身のぞいあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 まうつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 雲あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 ゆふやあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 うううあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ



水  
 那  
 了  
 井  
 の  
 場

ありや堂也事の傍らうらま ありの庭まは色小  
 ろのくわ中しうの美鏡うらおうむなちる月よ  
 ーやうらまこちか家休ひやうう中法がめうち  
 こあつて成あい海敷とらや へきうて息を大儀  
 元まどやうらな せいでましく中こがあせ又おま  
 いごのわあさるあを空也事とつひ中を縁 かつら  
 だのまあちのあうてふざらうらちや中う代く  
 るなまうふ大念を版 ーやあちうまんとやああが



機くゆるがめんとうじと世田の中うらなほそのま  
ざら一づくひりあてまうくその中へ山のよまう  
あうくらひあつらうらも縁念同あでめがまの  
たねおでくく入らまやせんううせめく二摺本らも  
つくえやうとくひらうとあがはわらうがうくうさる  
くこあんのいさふよまふんこんでまうぐまう  
に又よなるまのへ中一うあが今ぞんといとまう  
たう中一うあが今ぞんといとまう

このまをとりうらえんせんうらなほあなほ  
あもあうやせう林 ちん  
る甲の飯登やあうやあひまのうらうら  
仲回てまうのほのまあう酒登とらううて飯とた  
ひふらひあふとやううらうらあうらとせあ  
せふらあまらふまき知うらうらうらあひ  
やうらのまよあうやまのまうあうあう  
まうらうまうらうらうらうらうらあう



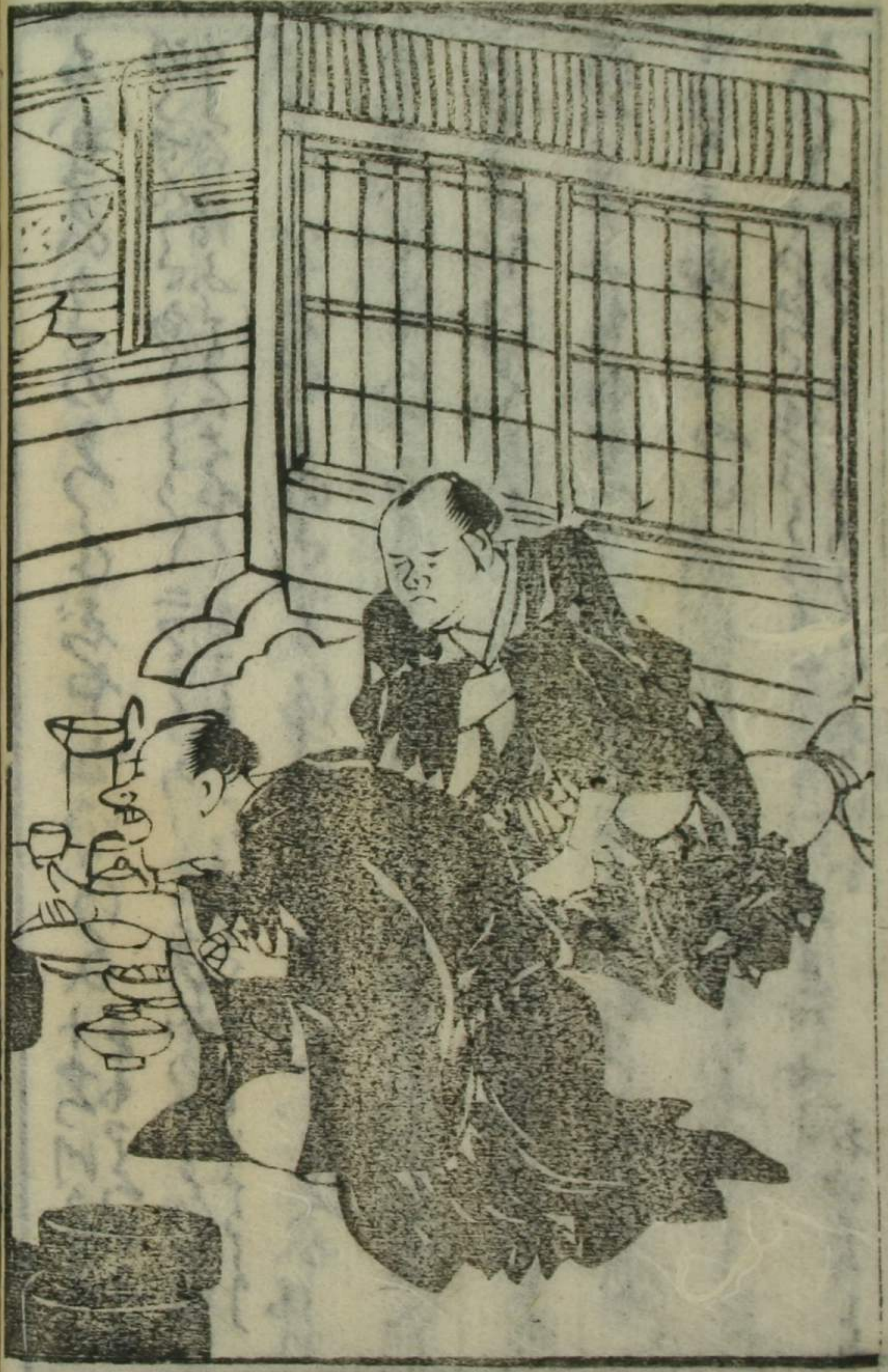


かし 下ろす下<sup>ル</sup>やぞのまをいふあゆむく<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>  
 附合<sup>あひ</sup>あろうるまをゆる<sup>ル</sup>るん<sup>ル</sup>て<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>ん  
 ーふよふらあ け<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>  
 い<sup>ル</sup>か<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>て<sup>ル</sup>後<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 せん<sup>ル</sup>す<sup>ル</sup>に<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>て<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>め<sup>ル</sup>よ<sup>ル</sup>も  
 くらん<sup>ル</sup>こと<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>け<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>ふ<sup>ル</sup>か<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 くらん<sup>ル</sup>えん<sup>ル</sup>せ<sup>ル</sup>一<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>せん<sup>ル</sup>た<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>で<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>の  
 くらん<sup>ル</sup>えん<sup>ル</sup>より<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>えん<sup>ル</sup>

ぞ<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>上<sup>ル</sup>りの<sup>ル</sup>ち<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>えん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>ド<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>サ<sup>ル</sup>サ<sup>ル</sup>ナ  
 け<sup>ル</sup>ア<sup>ル</sup>メ<sup>ル</sup>で<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>ト<sup>ル</sup>ウ<sup>ル</sup>ラ<sup>ル</sup>イ<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>サ<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>が<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>  
 さ<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>そ<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>ト<sup>ル</sup>む<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>つ<sup>ル</sup>て<sup>ル</sup>つ<sup>ル</sup>け  
 たり<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>が<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>ア<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 くら<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 くら<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 ド<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 あ<sup>ル</sup>が<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>つ<sup>ル</sup>け<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>  
 り<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>よ<sup>ル</sup>ふ<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>が<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>えん<sup>ル</sup>ド<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ル</sup>







かおきまきおアイおせふなり中こまなく海はえん  
いう経くうぶまをく

けがめうう入と茶あまめぬむも

中こふりしと神也寺の傍

まよりまきて神の杖ぬみんらこころが東の門より  
一糸とありふちるなとまをんせうくとりまじ

南向の門とやふふあもりむもウの杖子を神け

ちや危のうどちうくあまが海はえんんげうて母

「まきく」まらまのそくこうアコとうあそくふま

うけくあるそくちかやう人あそくまうようくこお

とままこあそくまらうふああるをとあそくアコて

まらまそくまらうふあまらうとあそくとき

例の杖よりうけつかけとつあこまじとつあそく又け

りらあこまらうまらうまらうちあつあうそまらわ

ことまらうまらうまらうまらうまらうのまらわ  
まらう一足まらうまらうまらうまらう

ついまらあそくまらうまらうまらうのまらわ

はつくとみゑのまゐととくしほのうけよあつておる  
うらよりやだつぱいあら入しやア後入はレハつれあ  
い、コリや大でまざりく  
トあしよりきくちあやるとんか  
くともあうんてるめうけあうんせやとてうとのそしこを  
あらけーちや倉のまへふらうてふんちちありそうこうをえ  
あうけあけそちや倉ふだつぱらひてんましとありひはく  
ちのうこそりうのあうんつらまきとぬりあらくうらうこそおく  
引このあうとあいはままどろのドや日うらまろを  
甲トうとともうこうを甲せつらせうへんとあやうとくは引  
はつらくはふふちうそしてあうんちけさかり  
コリや又あけあめうよあふしとくハアとくまゐくつし

ゆびんおめ人のあう人なりまろいは引いしやめう  
とんとめよあひせるとまざりく  
トあうのけんむかふあ  
あう自分もあうハモミナくころちやててまうままとらるサア  
あうらうあうまハアフリヤこそあうけいは引コリや  
たまぬく  
ト一ういせんはあひあう  
ざうままそこのまづいく  
トあうらうと目あういそよ  
あ入ちやうくととくせとあうらうけいして下のあ  
とうちをいしゆのいおがらうらうまをたらあしあいの

那中なちゆうと刀おしてやと世もあふんしとせとやと  
中人ちゆうじんをては舞の人よりまうとらよよかろうと  
ややと町とをあきてあきあき

よ折んとよと世と人そ鬼あふ人

あきやうの花のさうら

そまうと壬生ちふあうてあふは旅美か

あふとよせらあ中のあき人せよとまてその

あきの名とさうめうちゆとらあふら日江東と

刀おし 春はる花はな柳やなぎより丹波たんぱ樹じゆをとよとさうらとあ  
とさうらとあうとらり船ふねはあつて大坂へとあ  
あふとさうら

滑なめ草くさ五十三ごじゅうさん駅えき六む篇へん卷まき之下のした終はつ





